

6-1 1 / 5時の指導計画

(1) 目標

- ・ 故事成語の基になった漢文を知り、古典には様々な種類の作品があることを理解することができる。

(2) 展開

過程	学習活動	教材資料	指導上の留意点	評価規準と評価方法 Cの状況の生徒への手立て
導入	1 知っている古典作品を思い浮かべる。 2 「故事成語」の言葉の意味を確かめる。 3 故事成語の基になった故事を知り、漢文に興味をもつ。 4 本時の目標を知る。		○小学校で学習した古典作品を思い出させる。 ○「故事成語」がどういう言葉を表すのか確かめさせる。 ○小学校で学習した故事成語の基になった文章で、身近なものを紹介する。	
<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 古典には様々な作品があることを確かめよう </div>				
展開	4 「矛盾」の基になった漢文を音読し、読み慣れる。 [手順] 1) 教師の範読を聞く。 2) 教師の後について一斉に読む。 3) 原文を区切ってグループで分担して読む。 4) グループの音読を聞き合う。 5 「矛盾」の書き下し文と現代語訳を交互に読み、大体の内容を捉える。 6 学習課題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 故事成語に合った出来事を4コマ漫画にして読み合い、自分のものの見方や考え方を広げよう。 </div> 7 学習計画を知り、見通しをもつ。	学習計画表	○「矛盾」の故事について大まかに説明してから、基になった漢文を音読する。 ○教師の音読を聞いて、表記と読み方を照ら合わせるようにする。 ○繰り返し音読することによって、漢文独特のリズムを味わわせ、古文とは違うリズムであることを感じ取らせる。 ○今に生きる故事成語が、「矛盾」の他にも多くあることを知らせ、生徒の興味を喚起する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 【言①】 故事成語の基になった漢文を知り、古典には様々な種類の作品があることを理解している。 【学習計画表】 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 既習教材の「竹取物語」や、その他小学校で学習した古文を思い出させ、漢文との違いに気付かせる。 </div>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">まとめ</p>	<p>8 本時の学習を振り返る。</p> <p>9 次時の見通しをもつ。</p>	<p>学習計画表</p>	<p>○「学んだこと」の欄に、「矛盾」の基になった漢文と「竹取物語」の古文との違いや共通点などを書かせる。</p> <p>○次時は、国語辞典や資料集などの学習用具の準備をすることを伝える。</p>	
--	--	--------------	--	--